クリック 15号は駄作であったか



藤本健二

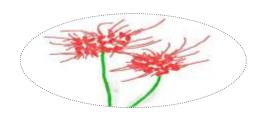
クリック 15号

機関誌クリックの編集・制作には編集 委員が携わりますが、15号は全員入れ替 わり無我夢中で仕上げることになりまし た。私も一員として作業を受け持ちまし た。

当時は、妻が亡くなり悲しみに打ちひしがれていて何事にも取り組む気力がわかず編集会議やメールでほかの委員に背中を押される形でやっと編集に立ち向かう日々でした。原稿はスムーズには集まらず、ページ数を増やすには仕方ないと思い私がたくさん寄稿しました。

さて、その15号に対しては厳しい批判もお二人から出されました。会員全員に発信するいわゆるメーリングリスト機能を使われて批評を送信された方と私個人に宛ててメールされた方のお二人でした。おおいに反省しました。ご指摘は貴重な意見であり今回の16号に反映できていれば進歩であろうと考えています。

頑張って 15 号を完成した私たちの中には、あまりにも厳しい酷評と受け留めて、もう次はやりたくないと愚痴をこぼされる方もいました。トラウマでした。 私宛のものも酷評でしたから一度は腹を たてました。ですが素直に批判を受け容れようと考えなおしています。でもこの私宛のメール内容はなるべくは他の委員の方々には伝えずにおこうと思います。トラウマがまた生まれると困ると考えての事です。なにしろ夜を徹して作業を続けられ少なからずポケットから出費して夢中で頑張った者が多いので、その努力などを知っている私には編集委員をねぎらう以外の言葉を知りません。私宛に酷評を書いてくださった方の指摘はここでは説明もしないし反論もしません。



私が編集長を引き受けてしまう状況にいたので私が 15 号の基本方針を決めました。方針は新しい考えで新しい装丁をするということでした。ページ数が不足する場合は私が記載すると初めから考えていました。ですから投稿が少なくても自分勝手とは知りながらまったく気にしませんでした。ですから批判が出るのは承知で言いますが焦りもしなかったし悩むことはしませんでした。

しかし他の委員の方々は大いに頑張り

せん。

私は反省しました。批判は、ここで申 し上げますが上のように自分で決めて進 めたのですべて私が捉える事であり批判 を受け容れました。つまり15号は駄作で あったと理解します。駄作であったと私 は受け留めるが、仕上げた時の委員の 方々の満足した笑顔、自分の宝物だと喜 ばれた方、みな喜び感激したのです。

例えば、ここに馬鹿な息子がいるとし ましょう。ただ馬鹿だと罵ってよいので しょうか?つまらない物を制作したから と言って罵倒してよいのでしょうか?努 力しないからと叱ってばかりいてよいの でしょうか?

努力して能力を高めた者が、努力せず 能力もない人をただ馬鹿だ馬鹿だと罵っ てよいのでしょうか? 平等でもないこ の地球文明において能力を高めた人は多 く幸運に恵まれたという事ではないでし ょうか?自慢する事ではないのではない か?自分が上手だからと言って人が人を 見下げてよいものかどうか?

私は編集長として、編集者の方々と一 緒に頑張って初めてのクリック製作を成 し遂げたことに満足しています。それが 駄作だとしても、駄作だと批判されても 仕事を完遂したことを誇りに思うのです。 駄作をもって今までのクリックの歴史に 傷をつけたとしてもです。

ました。この事は強調しなくてはなりま そして今回の 16 号を皆様にお届けい たします。15号よりも少しよくなってい たら幸せです。

平成 25 年 11 月 27 日





コラム

編集委員として時間が過ぎてい く。気がかりではある。もちろんク リックのことである。委員の皆様と 共同で一冊を仕上げるという事に楽 しみもあるが、兎に角、時間に追わ れてしまう。

ひとつ素晴らしい特典がある。投 稿される方々の人となりが作文に投 影されるわけだが、作文を少しばか り精読せねばならないことにある。

伊山さんの「断捨離」を通読して 我が身にも差し迫る限りある命を惜 しんで、『「断行」、「捨行」、「離行」 という考え方を応用して、人生や日 常生活に不要なモノを断つ、また捨 てることで、モノへの執着から解放 され、身軽で快適な人生を手に入れ ようという考え方、生き方、処世術 である」』という一説に触れて、背中 を押される思いになる。

来期は「断捨離」を進めたい。